

第6回「こころにジ〜ンとくる！」

いのちのエンジニアのはなし」受賞作品

最優秀賞 「笑顔の外来〜おうちっていいよね〜」

三春 摩弥様

おうちに帰りたい、家族と一緒に過ごしたいと思うのは当たり前のこと。しかし、医療的ケア児にとってはたくさんの壁を乗り越えた上でのスタートになる。私は当院に勤務してから在宅人工呼吸器の子供達の在宅医療移行支援業務に携わってきた。出生前診断が広がる今、そして以前では助からなかった命が救えるようになった今、医療的ケア児は増加している。特に在宅人工呼吸器をつけた医療的ケア児は10年で10倍になっている。当院では医療機器の選定やバギー・ベビーカーへの設置方法・初めてのお散歩・車での移動方法からCEが携わっている。毎日の人工呼吸器ラウンドを通してご家族と接し、子供達にも積極的に話しかけ、一緒に在宅移行へ進んでいく伴走者として関わっている。当院では在宅移行後に1か月に1回小児科外来での回路交換を行っている。そこは私にとっては笑顔の外来。成長した姿をご家族と共有できる。1年に1回は誕生日をお祝いする。生まれてきてくれてありがとう、私と出会ってくれてありがとうと感謝する大事な外来である。医療的ケア児の成長はかなり個人差があるが、在宅人工呼吸器を離脱できる子、睡眠時や短時間での人工呼吸器に移行できる子がいるのも事実である。気管切開している子は話せないと言われているが独自に発声法を身に付けて発声してくれる子、手話で会話してくれる子、手遊びを披露してくれる子、学校や放課後等デイサービスの様子を教えてくれる子、友達ができたよと嬉しそうに話してくれる子、旅行に行ってきたと話してくれる子、その成長をご家族も嬉しそうに話をしてくれる。入院した時は普段の状況を把握しているのでその子の在宅移行へのゴールがわかる。主治医と全力で在宅へ向かって走っていく。私はご家族が不安に思っているときには気軽に話しかけられるようなCEでありたいと思っている。そこから本音が聞き出せたらいいからだ。私は笑顔の外来で待ってるよ。

第6回「こころにジーンとくる！」

いのちのエンジニアのはなし」受賞作品

優秀賞 「僕と臨床工学技士」

新田 颯土様

高校2年生の冬、私の祖父がペースメーカーを使用しての生活となりました。私は、この時ペースメーカーとはどのようなものだろう、どのような人たちがこの小さな医療機器に関係しているのだろうと疑問を持って調べ始めました。こうして知ったのが臨床工学技士でした。

臨床工学技士を知るまで、病院内で医師、看護師が活躍しているといった大まかなことしか知りませんでした。臨床工学技士の業務内容を知り、時には医師などと連携し活躍する。また、時には患者さんに使用される医療機器を始めから終わりまで保守管理をする。私は、その臨床工学技士の姿に表ではもちろんのこと裏方としても大活躍できる、そんなやりがいのある仕事他にはないのではないかと思いました。そして元々、機械系に興味があった私は、医療機器の専門医療職であり、医療機器の安全性確保と有効性維持に貢献する業務内容にも魅力を感じました。

祖父が病を患うまで、私は高校卒業後の進路なんて全く考えていませんでした。ですが、これを機に医療機器を通して、私の祖父が命を救われたように私も臨床工学技士となりより多くの患者さんを救いたいと思い、臨床工学技士を目指すきっかけとなりました。

大学の実習では、症例を元に行った人工心肺のシュミレーションで大動脈遮断などの医師との連携の大切さを学ぶことができました。実際に機器を稼働させて学ぶことが楽しくもあり、私が考えていた以上に人を救うまでの道のりも楽ではないなと講義・実習を通してよく考えさせられます。高校2年生から4年たった今でも、臨床工学技士になることは変わりません。この春から、4年生になりついに1年後に迫った国家試験に合格することを現在の目標とし、多くの患者さんの役に立てる臨床工学技士を目指し、これからも頑張りたいです。